

2022. 2. 2

報道関係者 各位

< 配信枚数2枚 >

【立命館土曜講座のご案内】

2月テーマ「フィクションがつくる現実：小説を『書く』とは」

開催日時：2022年2月19日(土)・26日(土) 13:00~14:30

開催方法：オンライン(Zoom ウェビナー)

2月の立命館土曜講座は、国際言語文化研究所の企画として、「フィクションがつくる現実：小説を『書く』とは」をテーマにオンライン(Zoom ウェビナー)で開講いたします。

どなたでも無料で受講いただけますので、ご関心のある方のご参加をお待ちしております。

記

■立命館土曜講座 2月テーマ「フィクションがつくる現実：小説を『書く』とは」

(1)第3351回「フィクションの『私』とは誰か？～小説から漫画まで～」

日時：2022年2月19日(土) 13:00~14:30

講師：立命館大学文学部 教授 西岡 亜紀

(2)第3352回「言葉が現実を作るー平林たい子『殴る』」

日時：2022年2月26日(土) 13:00~14:30

講師：武蔵大学人文学部 准教授 戸塚 学

開催方法：オンライン(Zoom ウェビナー)

内 容：別紙参照

聴 講 料：無料

定 員：400人 ※実施2日前17:00までに要事前申込。定員に達し次第、受付を終了。

申込方法：立命館土曜講座のWEBサイトよりお申し込みください。

<http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/re/k-rsc/kikou/doyokozakikoh.htm>

主 催：立命館大学衣笠総合研究機構

そ の 他：情報アクセス保障(手話など)については、講座実施日の10日前(前週の水曜日)までにご連絡ください。

以上

本リリースの配布先：京都大学記者クラブ、草津市政記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ

●内容についてのお問い合わせ先

立命館大学衣笠総合研究機構 担当:武田・瀬古

TEL.075-465-8224

別紙

■立命館土曜講座 2月テーマ「フィクションがつくる現実：小説を『書く』とは」

(1)第 3351 回「フィクションの『私』とは誰か？～小説から漫画まで～」

日時：2022年2月19日(土) 13:00～14:30

講師：立命館大学文学部 教授 西岡 亜紀

内容：

フィクションの「私」=作者ではない。言い換えれば、フィクションのリアリティは、その作者の現実とは別の次元のものです。それが大前提のはずなのに、小説の内容が実話かどうかやそれを実話と捉えた場合の倫理性などが問題になることがあります。たとえば、『木を植えた男』や『一杯のかけそば』のフィクション/ノンフィクション論争は有名な話です。フィクションの「私」とは誰なのか？逆に「単なる個人の生々しいつぶやき」ではない「フィクション」の「私」は、どのように立ち上がるのか？詩・小説・漫画・アニメーションなどを題材に、ともに考える場をつくります。

文章や音声などの表現実践に興味がある若い人たちにも、ぜひ参加していただければと思っています。

(2)第 3352 回「言葉が現実を作る－平林たい子『殴る』」

日時：2022年2月26日(土) 13:00～14:30

講師：武蔵大学人文学部 准教授 戸塚 学

内容：

小説を読む時、ストーリー、つまり物語の内容を読むことだけが、〈読む〉ということではありません。言葉の意味するところだけでなく、言葉の形にも注目して読んでみると、時に新たな発見があります。

この講座では、プロレタリア文学から出発した女性作家・平林たい子の「殴る」という一風変わった題名を持つ小説に焦点を当てます。実はこの小説は、プロレタリア文学でありながら、対立陣営の新感覚派の横光利一から高く評価された作品です。この高評価には、実は小説の言葉の形、つまり文体が深く関わっています。形に注目した時、小説の言葉というものが、いかにして小説世界の現実を作り出すかが見えてきます。

■立命館土曜講座

1946年から続く、市民向けの無料公開講座。故・末川博名誉総長の「学問や科学は国民大衆の利益や人権を守るためにある。学問を通して人間をつくるのが大学であり、大衆とともに歩く、大衆とともに考える、大衆とともに学ぶことが重要」との思いのもとに、大学の講義を市民に広く開放し、大学と地域社会との結びつきを強めることを目指しています。

<WEB サイト> <http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/re/k-rsc/kikou/doyokozakikoh.htm>